

庄内協同ファームだより

No.156 2015年5月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140

http://www.shonaifarm.com



花見で賑う鶴岡公園

今年もいよいよ春作業がスタートした。春はとにかく忙しい。一気に100mを猛ダッシュするような気分だ。長年酷使してきた体のあちこちにガタが来ている。これを農民の勲章といえは聞こえはいいのだが、医者に行けば「老化ですね」と片付けられる。この手でこの体で日本の農業を支えてきたんだと言いたかったのだ(苦笑)

今年の冬は山雪型だったので里では例年になく雪が少なかった。このような年はまともなことがない。冷夏の予測も出ている。天気に恵まれた年とは違い自分の力量がためされる年になりそう。マニュアル通りとは行かず五感をとぎすまし、自然を感じながら慎重に向き合って栽培して行かなければと思っているのだが、はてどうなる事やら? 取り越し苦労であることを祈りたい。

戦後70年、ひた走って高度経済成長を成し遂げた今、私達はとても大切な何かを失った様な気がする。物も情報も食料も世界中からかき集め何不自由ない時代。なのに、それでも心が満たされない。求めた豊かさとはどのような事だったのだろうか? 元号が平成に変わった時「これは平らになると言うことだよな。元に戻る、ふりだしに戻る」と言われた事があった。

まさに今米価は40数年前の水準に大暴落。TPP交渉もいよいよ大詰め。農業だけでなく国の主権そのものが脅かされそう。先進国では最低の自給率の低い国。遺伝子組み替えの食品が100万トンも輸入されている国。それを食べ続けるとどのような影響が出るかわからないと言う。グローバル企業の経済的植民地になるのはごめんだ!

地方創生と国は大見得を切る。規模を拡大し10年で4割経費を削減し農業所得を倍増するんだとか? 農家所得ではないところがなんとも空しくむなし。主食の米も今やその地位も危ぶまれる時代。このままでは限界集落、地方消滅も起こりかねない。仲間に努力すれば報われると励ますたびにうしろめたさを感じてしまう。瑞穂の国もいよいよ絶滅危惧種になり下がるのか? 「秘密保護法」「集団的自衛権」「農協改革」数の力とは空恐ろしいものだ! いつか通った道に似てる。東日本大震災から4年たつても、いまだに12万人の人々が避難生活を強いられている。なのに原発再稼動に暴走する。国民を置き去りにしたいこの国はどこへ向かうとしているのだろうか? ふと考え込んでしまった。

天気の流れは心の乱れ。心の乱れは政治の乱れ? やつぱり農家は五穀豊穡であらねばならない。詐欺師と政治家は信じちゃいけないよと落語の一説に出てくるようにそういう人たちは脇において、世界の食糧事情が怪しい中私達は迷わず安全安心な作物をこれからもずーと作り続け、皆さんへ届けることが責務と感じている。さあ気分を変えて堆肥散布に行ってくるか。のんびりしてる暇はないぞ。これからもよろしくお願い致します。

生産者集会報告

富 樫 俊 悦



2月27日に生産者集会を開催し40名の参加がありました。この集会は庄内協同ファームの生産者が環境と生産の方針を毎年確認する大事な会です。

自分たちの営農のなかでどのように環境を守るか、どのような生産をしていけばいいのか？ 化学農薬や化学肥料の使用を削減し環境負荷の少ない生産技術をすこしずつ確立してきました。塩ビなどの廃棄物も削減し、田んぼや畑ではたくさんの生き物が多様性をもっていきづく圃場を目指して頑張っています。また、植物廃油を使用しトラクターなどで使う石油を削減している人もいます。生産についても外部の勉強会などに参加し、各個人もそれぞれ栽培試験をおこない有機栽培の農法を確立できるように努力中です。土壌調査をおこない適正施



肥にも努めています。また、各作物ごとに収量目標を設定したり、有機資材

の情報提供なども行っています。各部会は昨年一年の農業を振り返り、環境プログラムと生産プログラムについて自分たちはどうであったか総括します。午前中は米部会と干し柿部会から発表してもらいました。

午後には来賓として来ていただいた「やまゆり生活協同組合」の加藤常務と「生活協同組合ナチュラルコープヨコハマ」の遠藤常務お二人から現況の報告を頂いた後に参加者全員で意見交換を行いました。どうやって栽培や思いを知ってもらうか、次世代へどうやって引き継ぐか(生産者も消費者も)など多くの話題が出ました。

最後は地元で自然療法を実践しているいっしやる井上さんから「コンニャク温湿布」と「豆腐と生姜を使った熱冷まし」・「琵琶の葉温灸」を実際に体験しながら教えてもらいました。茹でたコンニャクは長時間温度を保つので、タオルで巻いてお腹に当てるとじーっくりと温まってとても気持ちがよく眠りそうになりました。また、熱冷ましも温灸も身近にあるものでこのように活用できるのかと目から鱗が落ちました。参加者全員が身を乗り出す興味深い学習会になりました。

庄内産直ネットワーク 農林水産大臣賞受賞

小野寺 喜作

庄内産直ネットワークが平成26年度「環境保全型農業推進コンクール」で農林水産大臣賞(有機農業)を受賞しました。環境に配慮した農業生産活動に意欲的に取り組み地域社会の発展に貢献している農業者及び団体を表彰することを目的に実施されたもので、今回は全国から38事例の応募があり、その中からの受賞となりました。

法人(庄内協同ファーム)とJA(庄内たがわ農協)との連携による有機栽培は場の団地化等に伴う有機米産地の確立との評価で、去る2月24日に表彰式があり、私も産直ネットワークの副代表として同席しました。前日、農林水産大臣の辞任があり新大臣名での表彰状が間に合わなく、後日発送のハプニングもありましたが、田植・稲刈り交流に参加してきた消費者・職員がわざわざ来ていただき大変うれしく思いました。

米を農協に出荷しない、化学肥料や農薬を使用しない栽培への挑戦等から変わり者集団とされていたのが今は昔。JA庄内たがわ農協と連携

し、試験場、研究機関とも連携ができ、生きもの調査、田植・稲刈り等の産地交流を一緒になって取り組んできたこと等から、国から表彰を受けるとは感慨深いものを感じます。

地球レベルで考えて、農業といえども出来るだけ環境に負荷の少ない農業への取り組みは必須と考えます。有機農産物の消費がなかなか進まない現況にもあります。今回の受賞をこれまで一緒に取り組んできた消費者の方々を含め一緒に喜びたいと思います。そして更によりおいしい・環境負荷の少ない米づくりへの取り組みを、有機栽培の農産物を積極的にとりいれる産地交流・産直交流を進めたいと思います。



懐かしい味の

「笹巻き」

芳賀修



庄内平野では、農繁期に入る今頃決まって手作りのおやつとして、又お祝い事に「笹巻き」食べられてきました。


 我が家では、親戚や知人から頼まれ、今年で88歳になる母が今でも現役で笹巻きを巻いています。笹の葉の準備や茹でる作業は家内がやりますが、巻く作業はベテランにはかないません。庄内平野では地域で笹巻きの巻き方や色が違います。鶴岡市は銚色、酒田市周辺は白、我が三川町はその中間の黄色で、巻き方も三角巻き、こぶし巻き、タケノコ巻きと有り、何故そうなったのかは、武家文化と商業文化の違いなど諸説有りますが、定説は有りません。

原料は、減農薬無化学肥料の「でわのもち」、家の周辺から採ったクマササ、結わえる為のスゲ、重曹、それと庄内協同ファームのきなこ、国産の黒砂糖主体の黒蜜です。

起源は1000年以上前に遡ると言われ、製造方法も全くの手作業で、後世に伝えなければならぬ伝統食品です。

食べると何故か昔の思い出や田舎の風景が浮かんで来る懐かしい味がしますよ。

どうぞご賞味ください。



青年部勉強会&交流会

高橋紀子

去る2月23日、庄内協同ファーム青年部と若手職員の為の勉強会を開催しました。

30～40代中心の私たち青年部は、現在の取引先との様々なつながりを実体験として知らない世代なので、その辺りの歴史を、庄内協同ファームの東京在住組合員であり、NPO法人アトピッツ地球の子ネットワーク代表理事である吉澤淳さんよりご講演いただきました。印象的だったのは、元々生協職員であった吉澤さんが、庄内協同ファームのお父さん方と付き合いの中で熱烈なファンになって、何とかこの人たちが作るお米やお餅をたくさんの人たちに紹介したい!と手弁当で今の取引先の前身となる方々に紹介され、ついには東京在住の組合員にま



力的で面白かったんだもん！」と吉澤さん。吉澤さんが繋いでくれたご縁が生産者側には、有機栽培や普段自分たちが田舎で作って食べているお餅などが商品になるという気付きを与え、その後の庄内協同ファームの方向性を導いてくれました。どんなに組織が大きくなっても、結局は人と人との絆や信頼関係が一番大切なのだなあと感じました。自分たちも吉澤さんのように庄内協同ファームのファンになってくれる方を一人でも多く増やしていけるよう頑張っていきたいと思いました。

勉強会の後は、会場を小野寺代表の自宅でもある農家レストラン「菜あ」に移して、青年部メンバーと吉澤さんを変えて、交流を深めました。



でなっちゃった！というエピソードでした。どうしてそこまでファンになったのですか？との質問に、「だってあなたの方のお父さんたち魅

ペンリレー 徒然草

本間 美佳

規則正しい食生活を



庄内では暖かい日が続き、外で過ごすのが楽しい季節になりました。

休日には子供

と一緒に体を動かし思いっきり遊び、お昼もおにぎりを持参して食べる機会が増えてきました。

コンビニで買ったおにぎりよりも、やはり自分で握ったおにぎりの方が断然おいしく、子供でも簡単に作れるので、一緒に作ったりもしています。



私には6歳

の息子がおり

ますが、この

時期になると

保育園の遠足

があり、毎年

キャラ弁を頼

まれます。

最近ではデコ

ふりかけとい

うものがあり、

カラフルなお弁当を作れ

ますが、正直青や紫色をしたご飯は食欲

が出ません。(笑)

でも、息子が喜んでくれるならと、使

うこともあります。

庄内協同ファームに入って、生産者の

方々と日常会話の中でも食に対するお話を

することが増えてきましたが、私はあ

まり食に対して気を遣っていないんだと

思いました。

好きな時間に好きなものを好きなだけ

食べ、栄養バランスの悪い食事をしてい

たと思います。

それでも子供を産んでからは、野菜を

多く摂取したり、朝ごはんをしっかり食

べさせるなど気を遣っていたつもりです

が、今では自然と息子も親の私達が嫌い

なものは食べなくなってきたり、味の濃

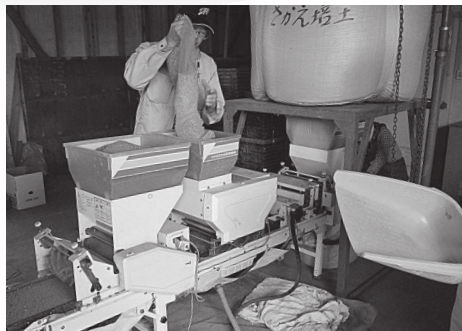
いものを好んで食べている事に気付いま



「働く農機具」

播種機 (はしゆき)

お米作りの最初の大仕事として種蒔があります。最近の播種機はベルトコンベア式になっていて、育苗箱を入れると自動で土入れ→灌水(かんすい)→播種→覆土(ふくど)という工程を経て、流れ作業的にあっという間に種まきが完了します。最新の播種機だと1時間に500枚以上作ることが出来る物もありますよ!



響するという話を聞いた事がありますが、まさにその通りです。
まずは、自分達の食生活を規則正しくしていかなければならないと考えさせられました。

これからは、手軽な冷凍食品をやめ、添加物や化学調味料に頼らないより安全で安心な食品を使って、手で握ったおにぎりと一緒に、息子が喜んでくれるお弁当を作っていきたいと思っています。

あとがき



自分は花粉症持ちであるが、最近花粉以外にも色々なものが空気中に含まれていると聞く。ここ最近でよく話題になるのが、PM2.5。意味は微小粒子状物質といって、数字は大きさのことを言うらしい。黄砂も仲間だそうです。これ何も今に始まったことではなく、前からそういった物質は空気中にあつたみたい。

お隣の中国が急激な発展を遂げ、眠れる龍どころか寝静まらない龍と化してしまい、その副産物がいい意味でも悪い意味でもここ日本に押し寄せている。黄砂は昔から日本人に認知されてきているが、それ以外の訳のわからない化学物質がいつしよに混じって、日本へと風に乗ってやってきているということだ。健康に影響を及ぼしかねないというから堪ったもんじやない。

その一方で「爆買い」で話題になった春節。日本人にはさほど思い入れがないが、これで経済的に潤った観光地も多いと聞く。寧ろ来てもらわないと困るといった所もあるようだ。

自分もかなりお隣の国には影響を受けていると思う。何しろ自分の服装は全て「メイドインChina」である。何はともあれ、同じアジアの隣国として仲良くできればと思う。ただこの花粉症ばかりはあまり仲良くなりたくないものである。今日も鼻をかみ過ぎて鼻が痛い。